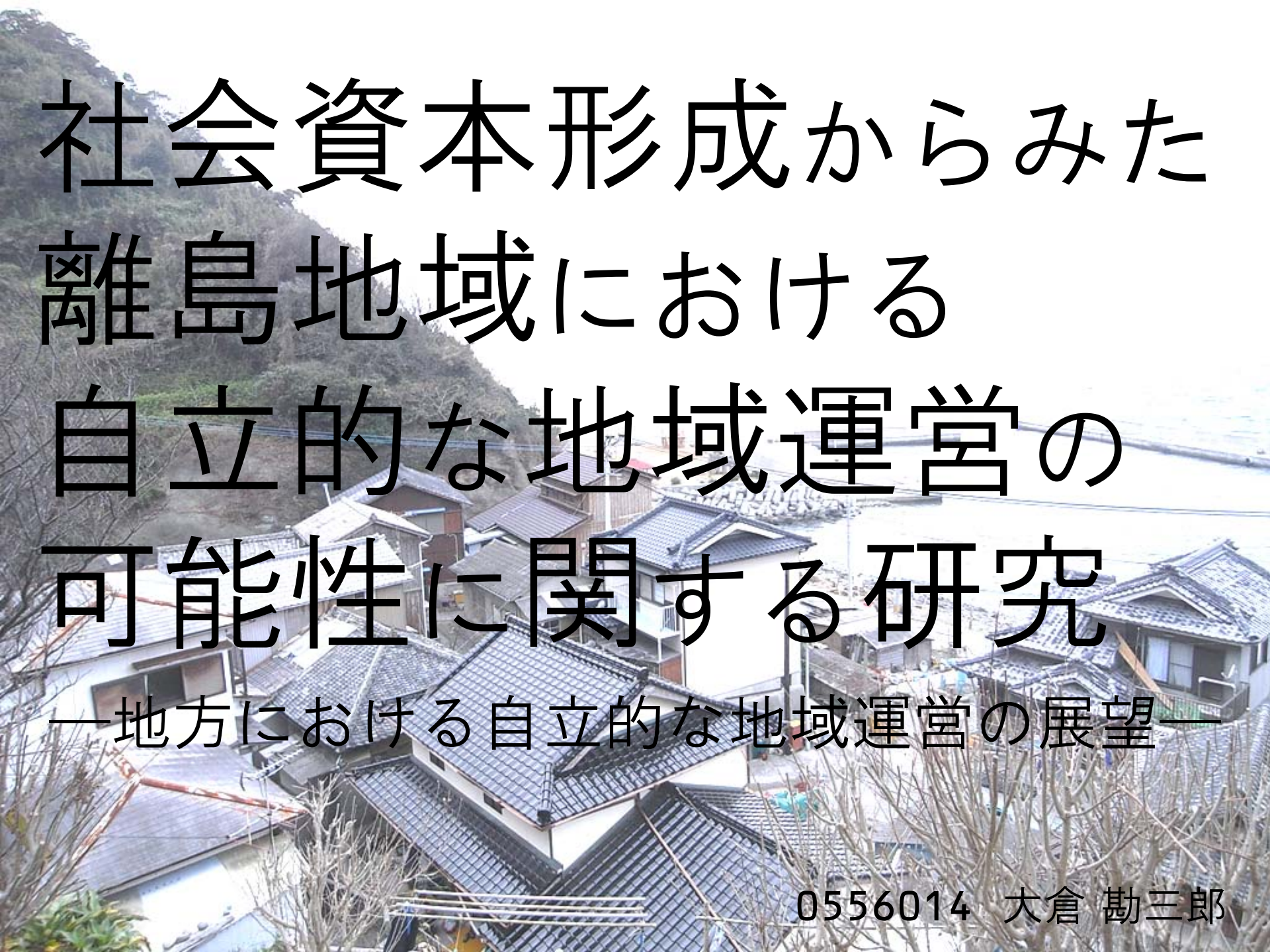






社会資本形成からみた 離島地域における 自立的な地域運営の 可能性に関する研究

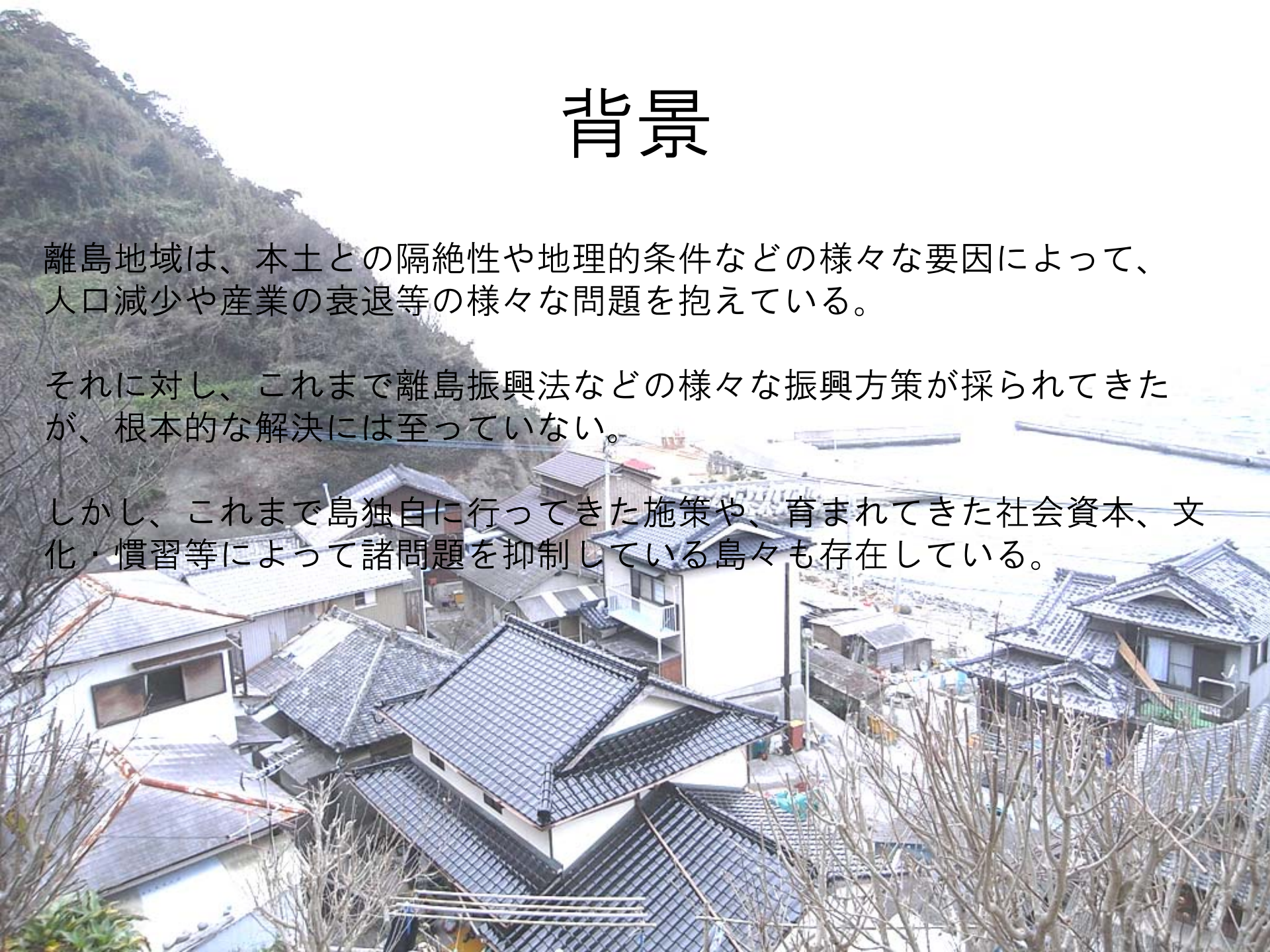
—地方における自立的な地域運営の展望—

背景

離島地域は、本土との隔絶性や地理的条件などの様々な要因によって、人口減少や産業の衰退等の様々な問題を抱えている。

それに対し、これまで離島振興法などの様々な振興方策が採られてきたが、根本的な解決には至っていない。

しかし、これまで島独自に行ってきた施策や、育まれてきた社会資本、文化・慣習等によって諸問題を抑制している島々も存在している。



目的

本研究では、これまで離島地域で育まれてきた社会資本を整理・把握し、その傾向や特徴を分析することによって、今後の離島地域における振興方策と自立的な地域運営のための有益な知見を導出することを目的とする。

※社会資本：「社会的共通資本」と「社会関係資本」の総称とする。

第3章

全国離島にて実施されてきた
施策事業の現状とその傾向

第4章

地域コミュニティの現状と
その傾向

概況の整理

第6章

離島振興方策に関する
ケーススタディ

第7章

地域コミュニティに関する
ケーススタディ

ケーススタディ

調査地の選定

既往研究によって得られたクロス集計の各ブロックの中で最もブロックの特徴に近い島々を調査地と定めた。

	変化安定型離島	人口変動産業安定型離島	産業多変動小型離島	産業活発小型離島	計
本土従属小型離島	8	3	10	3	24
標準的中小型離島	61	11	20	7	99
基盤充足観光型離島	3	-	-	-	3
孤立型離島	10	12	-	2	24
観光主体超大型離島	1	-	-	-	1
第一次産業主体大型離島	4	1	-	-	5
本土従属小型変遷離島	1	-	-	-	1
標準的中小型変遷離島	29	2	8	5	44
基盤充足観光型変遷離島	3	1	-	-	4
計	120	30	38	17	205

大分県 地無垢島

東京都 御蔵島

大分県姫島村について



瀬戸内海西端の離島で、国東半島の伊美港より
北へ 6km の地点に存在する。

人口	2537 人
世帯数	970 世帯
面積	6.8 km ²
周囲	13.7 km
フェリー運行回数	12 便

振興方策に関するケーススタディ

指数を用い、姫島村と全国平均を比較することによって事業の効果をみていく。

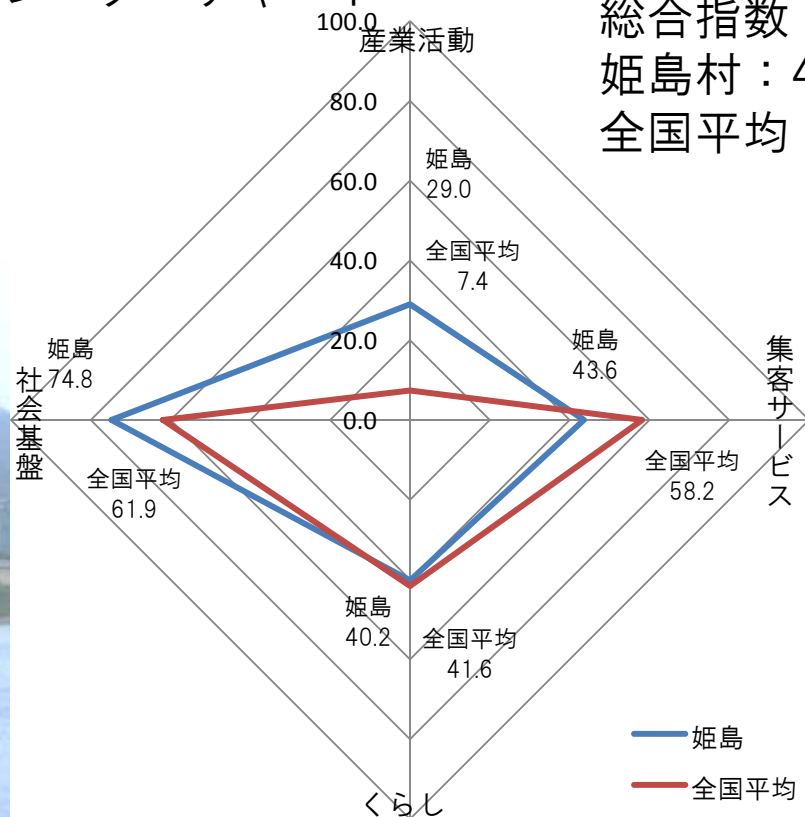
指数の算出方法

2005	実数				中間指数				中分類指数				総合指数
	姫島	人口	×	個別指数	名称	ウェート		指数	名称	ウェート		指数	
農業就業者数	5	2,821	1,000	1.77	農林水産業	81	1.4357	3.3347	産業活動	7	0.2334	29.0	46.9
林業就業者数	0	2,821	1,000	0.00		6	0						
漁業就業者数	428	2,821	1,000	151.72		13	8.5685						
製造業就業者数	175	2,821	1,000	62.03						93	57.692		
観光客数	41.9	2,821	1,000	14.85					集客サービス			43.6	
宿泊者数	12.9	2,821	1,000	4.57									
卸売・小売・飲食業就業者数	179	2,821	1,000	63.45									
サービス就業者数	258	2,821	1,000	91.46									
在校児童・生徒数	272	2,821	1,000	96.42								40.2	
医療従事者数	20	2,821	1,000	7.09					くらし				
電気・ガス・熱供給・水道業就業者数	8	2,821	1,000	2.84									
公務就業者数	106	2,821	1,000	37.58									
生産年齢人口指数		2,821		57.30									
水道利用人口比率		2,821		100.00									
し尿処理率		2,821		100.00									
ごみ施設処理率		2,821		92.80								74.8	
汚水処理人口普及率		2,821		82.10					社会基盤				
建設業就業者数	150	2,821	1,000	53.17									
運輸通信就業者数	59	2,821	1,000	20.91									

振興方策に関するケーススタディ

指数を用い、姫島村と全国平均を比較することによって
事業の効果を見ていく。

レーダーチャート

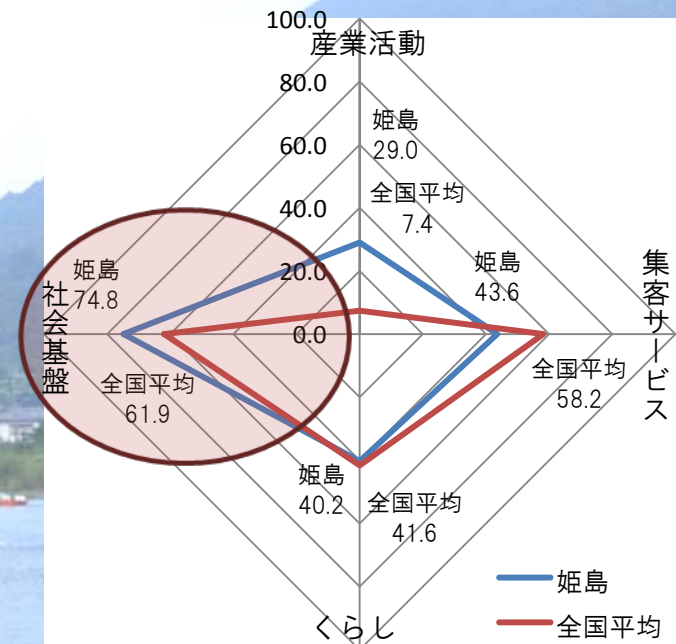


社会基盤に関する事業について

1965年には電力ケーブルの海底送電がなされ、1966年には村内一円に簡易水道が布設される。

また、港湾、道路の整備も積極的に行なわれている。

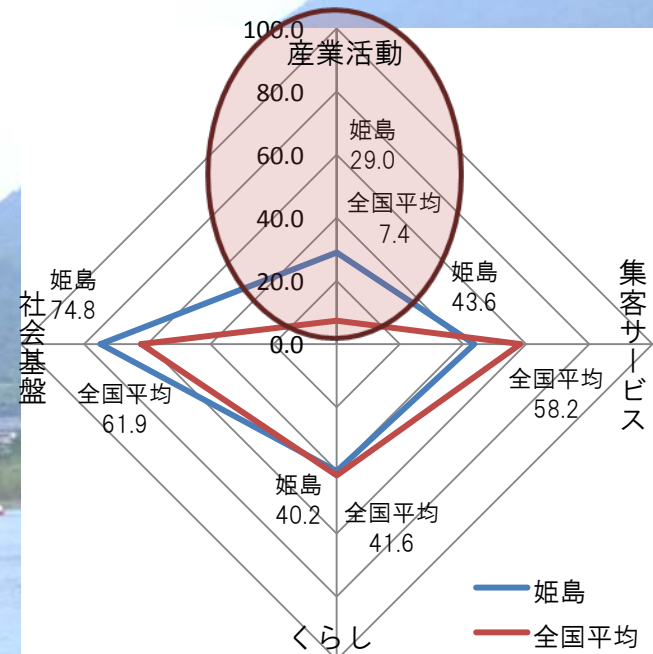
社会基盤指数をみると、早い時期から基盤整備が進められたことも影響し、全国平均の61.9に対し、74.8と高く、現在でも高水準であることがわかる。



産業活動に関する事業について

主な産業である車エビの養殖は、1959年に廃止された塩田跡地を利用して行なわれ、1965年に設立した第3セクターによって運営されている。雇用創出の目的もあったが、第3セクターだけでは賄えず、2003年の水産加工場の設立によって対策が図られている。

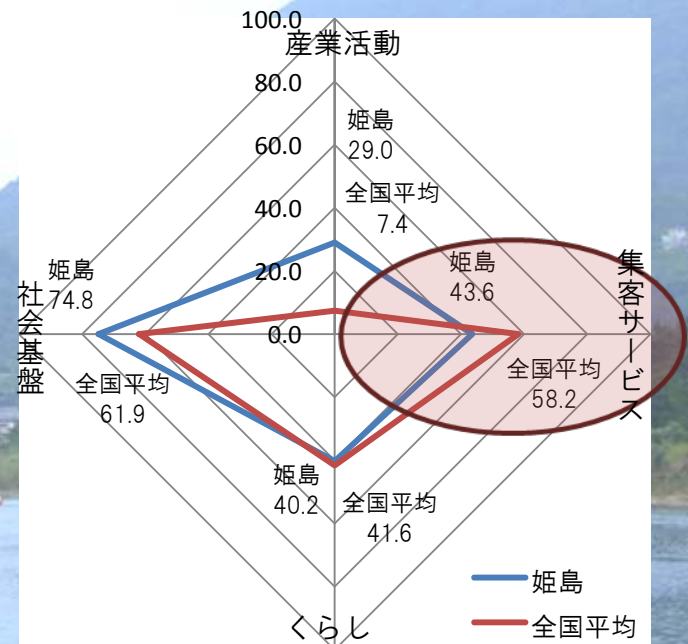
産業活動指数をみると、全国平均が7.4に対して、29.0と高い。姫島村は雇用創出の水準が高いと考えられる。



集客サービスに関する事業について

古くから各集落に残っている盆踊りや特産品である車エビとカレイの宣伝も担った祭りの開催が姫島村の大きな観光事業となっている。
また、県内で開催されるイベントにも積極的に参加して、特産品のPRを行っている。

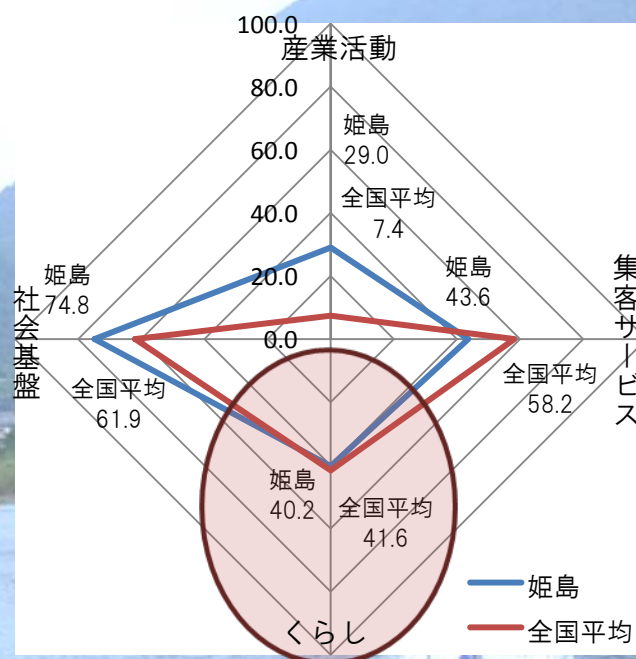
集客サービス指数をみると、
全国平均の58.2に対して43.6と低い。
姫島村には観光案内所のような施設・サービスがまだ十分整備なされていないことが一因と考えられる。



くらしに関する事業について

1957年に国民保険診療所が開設され、保険・医療・福祉の連携「地域包括ケア」が行なわれてきた。1991年には、全国で最初の高齢者福祉センターが開設され、様々な福祉サービスが提供されている。
また、役場のワークシェアリングによって雇用の創出が図られている。

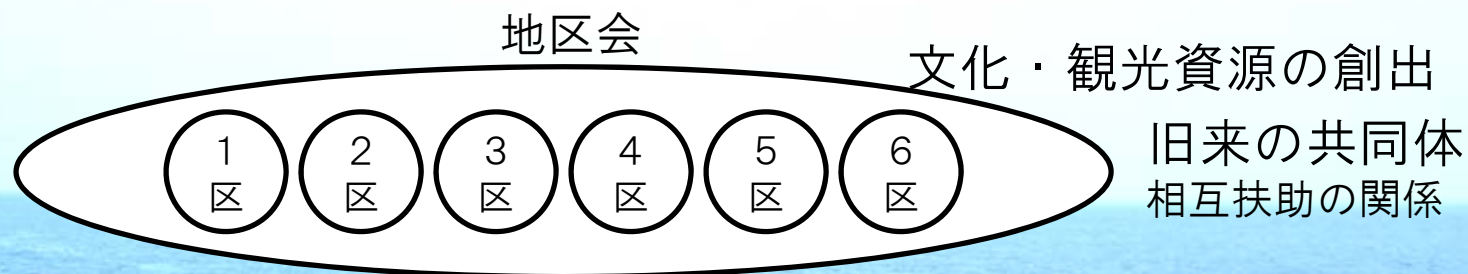
くらし指数をみると、全国平均の41.6に対し、40.2とわずかに低い。



地域コミュニティに関するケーススタディ

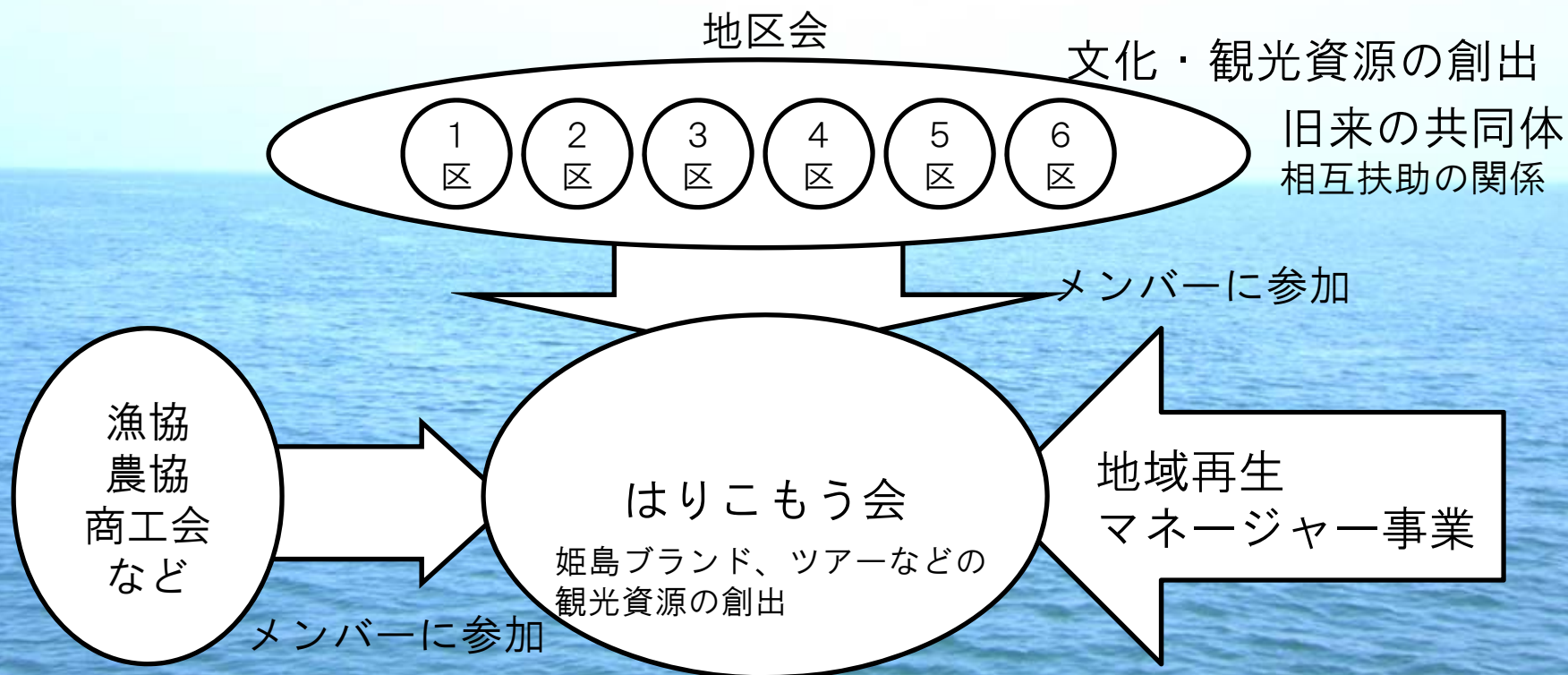
姫島村は6つの地区から構成されており、各地区に地区会が存在おり、相互扶助的な役割を果たしている。

各地区に伝わる盆踊りの多様性が島の文化・観光資源になっている。



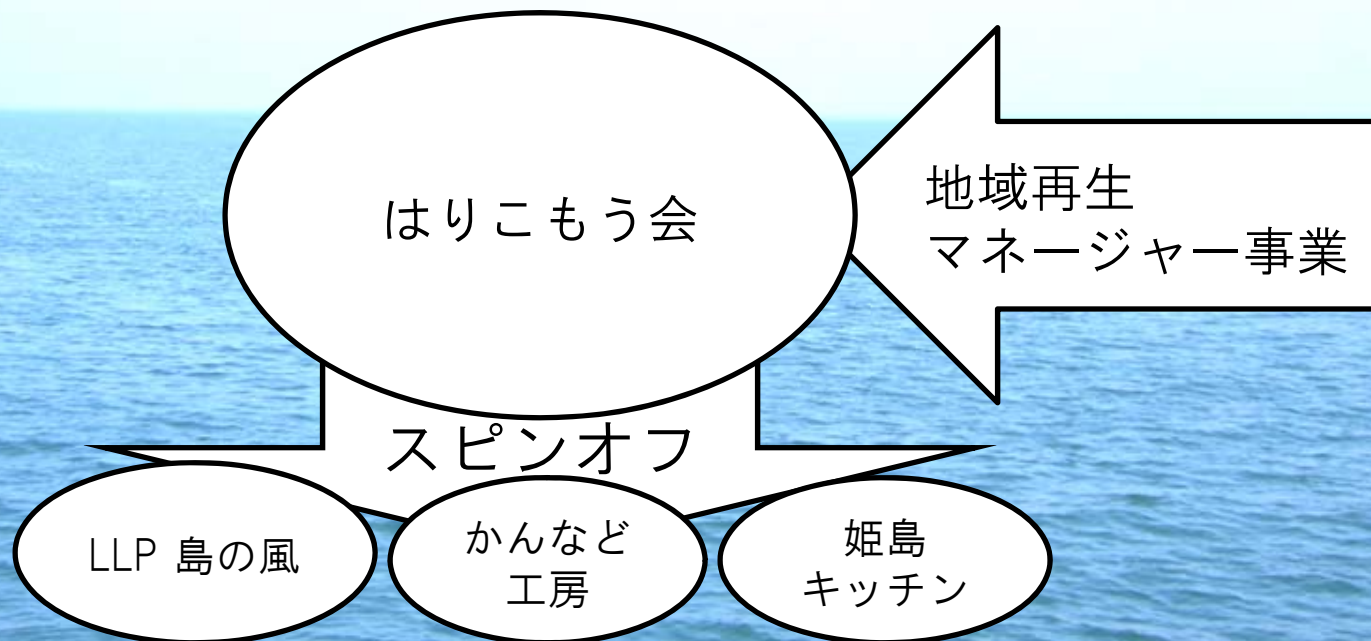
地域コミュニティに関するケーススタディ

2006年に(財)地域総合整備財団による「地域再生マネージャー事業」に
姫島村が採択され、地域のリーダーを育成する目的により、自治会、
商工会、漁協、農協などの村内の各団体のメンバーで構成された
「はりこもう会」が結成された。

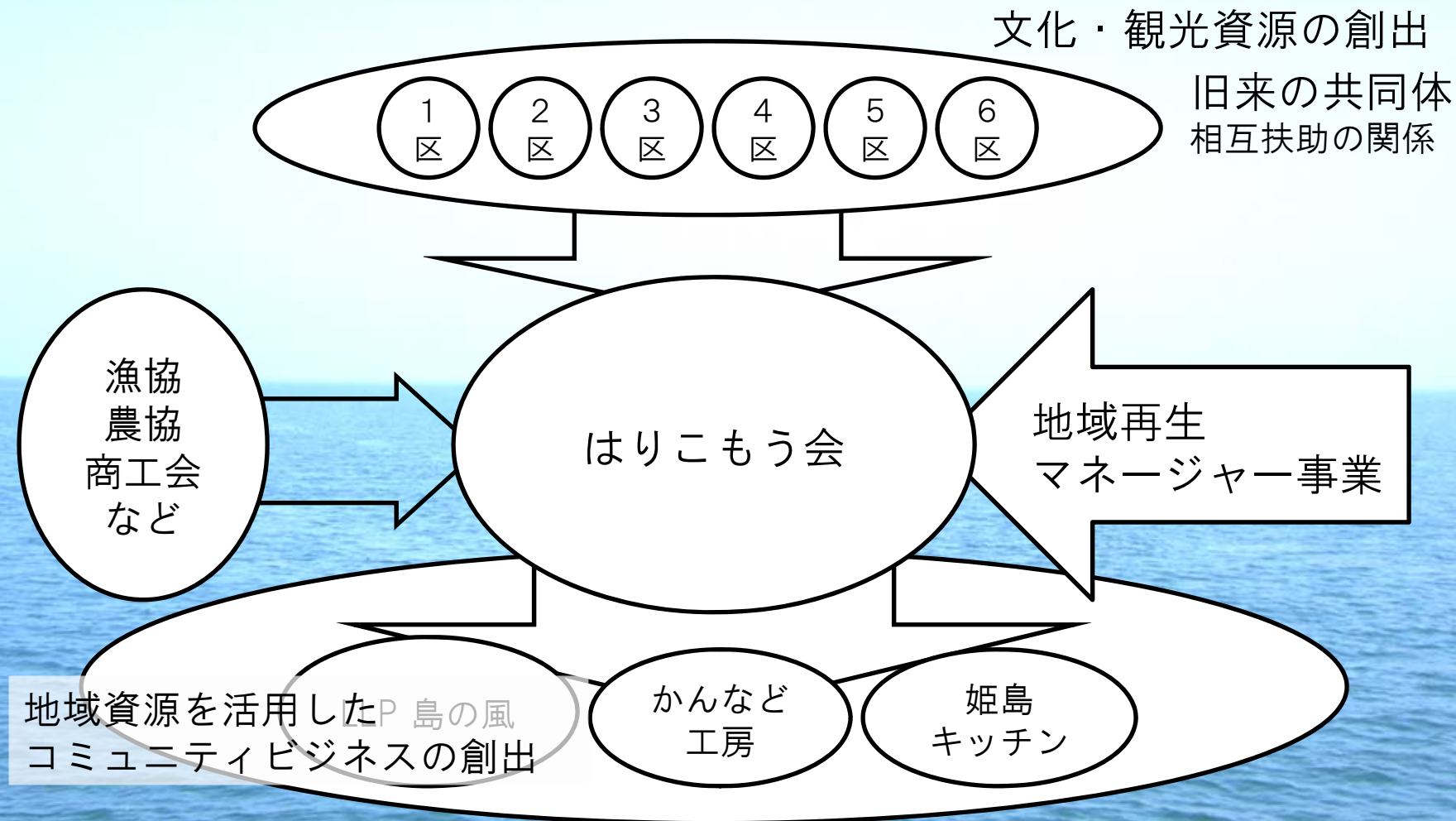


地域コミュニティに関するケーススタディ

しかし、開始当初は、活動はうまく定着しなかったが、その後、新たなコミュニティビジネスとして「姫島キッチン」や「LLP島の風」等の活動団体が地域再生マネージャー事業の一環で新たに形成された。これらの団体も姫島ブランドや、ツアーなどのあらた観光資源の創出を行っている。



地域コミュニティに関するケーススタディ



総括

姫島村における振興方策は、全国平均との比較によって、姫島村は社会基盤整備、産業の雇用状況の水準が高く、医療・福祉等は全国水準である一方、集客サービスに関しては全国平均より低いことがわかった。

姫島村の地域コミュニティにおいては、旧来の地区会を中心とした地域共同体によって形成されていた地域構造に、地域再生マネージャー事業がきっかけとなり、はりこもう会が結成されたことによって、新たなコミュニティビジネスが形成され、それらが地域資源を活用した取り組みを行っていることが明らかになった。

今後は、社会資本形成に関するケーススタディを複数島で行なうことによって、規模や地理的分類、産業構造等の様々な特徴別に検証し、タイプ別の振興方策方針を考案する必要がある。

